# データの関係を調査

相関係数を計算してみよう

#### 得られたデータの関係を調査する方法

#### ■ データが数値の場合

- 1. 基本統計量(平均,標準偏差,最大,最小)
- 2. 度数分布表 → ヒストグラム
- 3. 散布図
- 4. 相関係数
- データが数値ではない場合
  - 1. クロス集計表(ピボットテーブル)
  - 2. 積み上げ棒グラフ
  - 3. 数値へ置き換え
  - 4. 相関係数



#### 基本統計量の関数

- 平均 =AVERAGE(範囲)
- ■標準偏差 =STDEV.P(範囲)
- 最大 =MAX(範囲)
- 最小 = MIN(範囲)

■ 度数分布表 = FREQUENCY(範囲, 区間)

#### 度数分布表(FREQUENCY その1)

#### 1. 最小から最大までの区間をあらかじめ入力する

2. 区間の右側を複数選択する(計算結果)

(	<del>ت</del> 🖬	- ¢							練習1-1.0	csv [読み]	取り専用]	- Excel								
וכ	アイル	ホーム	挿入 /	ページ レイアウト	、数式	データ 校閲	表示	♀ 実行したい作	業を入力して	ください										
	<b>*</b>	游	ゴシック	- 11	A A	= = *	, ┣.	り返して全体を剥	表示する 標	準	Ŧ									
貼り	がけ	в	I U -	- 👌 - A	• <sup>7</sup> / <sub>±</sub> •		• <b>≣</b> ⊭ t	ルを結合して中央	央揃え ▼ 🛄	• % •	€.0 .00 .00 €.00	条件付款	きテーブルとして	こ セルの						
カロッ	▼ ▼ プボード	5	-	772	5		記書		5	数值	5	書式 ▼	<ul> <li>         ・ 書式設定         ・     </li> <li>         マタイル     </li> </ul>	スタイル						
							머니프			327 [[2]			X7170							
13		*	: ×	$\checkmark f_x$																
	A		В	С	D	E	F	G	Н	1		J	К	L		2	 な	複数	汝躍	択
1	No		身長	体重	読書数	図書館利用														- <b>)</b> / •
2		1	154	52	2	2 3									~					
3		2	161	52	2	2 2			150	)										
4		3	151	50.6	2	2 1			155	5										
5		4	153	46.6	(	0 1			160											
6		5	161	51	3	3 3			165	5										
7		6	162	55	1	1 0			170											
8		7	157	46.5	2	2 4														
9		8	156	46	2	2 1														
10	)	9	163	52	3	3 2														
11		10	155.2	46.8	2	2 3														
12		11	157	56 5	1	1 1														

#### 度数分布表(FREQUENCY その2)



# 度数分布表(FREQUENCY その3)

関数の挿入	? ×								
関数の検索( <u>S</u> ):									
	検索開始( <u>G</u> )								
関数の分類( <u>C</u> ): すべて表示 ~	-		FR	EQUEN	TYを選択	5			
関数名(N):									
FORECAST.ETS.STAT FORECAST.LINEAR									
FREQUENCY									
FV FVSCHEDULE	~								
FREQUENCY(データ配列,区間配列)	_								
範囲内でのデータの度数分布を、垂直配列で返します。返された配列要素の1 列の個数より1 つだけ多くかります。	関数の引数							?	×
	FREQUENCY								
-	_	データ配列			🚺 = 参照	2			
	_	区間配列			🚺 = 参照				
<u>この関数のヘルプ</u> OK	_				=				
	範囲内でのデータの	)度数分布を、	垂直配列で述	返します。返された配列	要素の個数は、区間	記列の個数よ	り 1 つだけ多	くなります。	
	_		データ配列	には度数分布を求めた 無視されます。	こい値の配列、または参	参照を指定しま	きす。空白セノ	しおよび文言	字列は
	_								_
	数式の結果 =								
	<u>この関数のヘルプ(I</u>	<u>+)</u>					ОК	キャンセ	ヹル

# 度数分布表(FREQUENCY その4)

٨	D	C			C	L			
No	 身長	(休香 誌)	∎ デー	夕	G	п	1		
	1 154	F中主 52							区間
	2 161	52	2	2		150	H3·H7)		区间
	3 151	50.6	2	1		155			
	4 153	46.6	0	1		160			
	5 161	51	3	3		165			
	6 162	55	1	0		170			
	7 157	46.5	2	4					
	8 156	4 関数	の引数						? ×
	9 163	5 FRI	FOUENCY						
1	0 155.2	46.	ニ ニのm	B2·B31				.161.151.152.16	
1	1 157	56.	) - 9				- (154	,101,131,133,10	51,102,137,130
1	2 150	6	区間回				= {150	;155;160;165;17	/0}
1	3 155	48.					= {2;5;	;11;10;2;0}	
1	4 163		内でのデータの度数分れ	布を、垂直配列て	ご返します。 返さ	れた配列要素の	の個数は、区間配	列の個数より1つだ	け多くなります。
1	5 164	5		区間配列	したはデータ配 地定します	列で指定したう	データをグループ化す	するため、値の間隔を	配列または参照として
1	6 165	49.			187CO4.8.9.				
1	7 156	4							
1	8 168	5 数式	の結果 = 2						
1	9 159	4 このほ	<u>関数のヘルプ(H)</u>					ОК	キャンセル
2	0 158	5.		-					

#### 度数分布表(FREQUENCY その5)



#### ヒストグラム

- 個々の集計
  - 度数分布表 → ヒストグラム
- ■「挿入」→「棒グラフ」
- 棒グラフの間をなくすには、グラフの 上で右クリックし、「データ系列の書 式設定」→「要素の間隔」を0%





- 2つの関係
  - 2つの並んだデータ → 散布図
  - 2列データを選択して →「挿入」
     の「散布図」
  - 縦軸横軸の範囲を変更するには、 グラフの数値の上で右クリックし, 「軸の書式設定」で数値を変更







#### 関係を数値で確認

- 相関係数を求める関数(どちらも同じ)
  - = CORREL(データ1, データ2)
  - = PEARSON(データ1, データ2)

関数の引数		? ×
CORREL		
配列1	B2:B31 = {154;161;151;153;161;16	2;157;1
配列2	C2:C31 = {52;52;50.6;46.6;51;55;4	6.5;46;
-	= 0.237141954	
2 つの配列の相関係数を返し	ます。	
	配列2 には値 (数値、名前、配列、数値を含むセル参照)の2番目のセル す。	範囲を指定しま
数式の結果 = 0.2371419	154	
 <u>この関数のヘルプ(H)</u>	ОК	キャンセル

相関係数の値	相関係数の強弱
0.7~1	強い正の相関あり
0.4~0.7	正の相関あり
0.2~0.4	弱い正の相関あり
-0.2~0.2	ほぼ関係ない
-0.4~-0.2	弱い負の相関あり
-0.7~-0.4	負の相関あり
-1~-0.7	強い負の相関あり



引用元:なるほど統計学園高等部

#### まとめ

- 得られたデータの特徴を数量で表すために
  - 1. 基本統計量(平均,標準偏差,最大,最小)
    - AVERAGE, STDEV.P, MAX, MIN関数を利用
  - 2. 度数分布表(ヒストグラム)
    - FREQUENCY関数(Ctrl+ShiftキーでOK)
  - 3. 散布図
    - ■「挿入」→グラフ
  - 4. 相関係数
    - CORREL関数
    - 関係を数値で判断

#### 擬似相関の話(見かけの相関)

- 相関係数が高いからといって, 因果関係があるわけではない
- 相関があるからといって,本当に関係があるかわからない
- ある事柄AとBに相関が認められたとしても,別の事柄Cによっ て「見かけの相関」が表れている場合がある



引用元:http://bokuranotameno.com/post-8964/, http://d.hatena.ne.jp/hoxo\_m/20130711/p1

# 数値データで ない場合

#### 数値データでないもの (記号)

- アンケートなどで得られるデータ
- 順序なし
  - YES, NO
  - 男女
  - 血液型
  - 都道府県

個数を数えるしか計算方法がない

- 順序あり
  - あてはまる、どちらでもない、あてはまらない
  - 好き、どちらでもない、嫌い
  - 松, 竹, 梅

#### 個数を数える方法

- 関数の利用
  - =COUNTIF(範囲, 検索条件)

SUM - : ×		✓ f <sub>x</sub> =COUNTIF	✓ f <sub>x</sub> =COUNTIF(A:A,"YES")								
	A	В	С	D	E	F					
1	牛肉は好きですか?	牛乳は好きですか?									
2	YES	NO		YES	=COUNTI						
3	YES	YES		NO							
4	NO	YES									
-	110	VEA									

- ピボットテーブル
  - 単純集計
  - クロス集計

#### ピボットテーブル(その1)

- データの用意
- 数えたいデータ
- 度数の列を作り、数値1
   をコピー

- 注意
  - 並んでいること(列が空いていないこと)が必須

	А	В	С	D	E
1	牛肉は好きですか?	牛乳は好きですか?	度数		
2	YES	NO	1		
3	YES	YES	1		
4	NO	YES	1		
5	NO	YES	1		
6	YES	YES	1		
7	YES	YES	1		
8	YES	NO	1		
9	YES	YES	1		
10	YES	YES	1		
11	YES	YES	1		
12	NO	NO	1		
13	YES	YES	1		
14	NO	YES	1		
15	YES	NO	1		
16	YES	YES	1		
17	NO	YES	1		
18	YES	NO	1		
19	YES	YES	1		
20	YES	NO	1		
21	YES	YES	1		

## ピボットテーブル(その2)

- メニューの「挿入」
- 左はしの「ピボットテーブル」をクリック

Ģ	ᠳ᠊ᠳ᠂᠅᠂᠂᠂					
ファ	イル ホーム 挿入 /	ページ レイアウト 数式	データ 校閲	表示 🖓 🖇	実行したい作業	を入
Ę			ストア 🗜	2	ll + <b>  .</b> + r <sup>1</sup> . · & + dt. + i≿ ·	
ピボ! テープ	ット おすすめ テーブル ブルピ <sup>ポ</sup> ットテーブル	画像 オンライン 画像 画像 ●	マイ アドイン 🝷 🖥	3 おすすめ 🖉	• <u>••</u> • 🖄 •	, ピボ
	テーブル		アドイン		グラフ	
C2	• : ×	$\checkmark$ fx 1				
	A	В	С	D	Е	
1	牛肉は好きですか?	牛乳は好きですか?	? 度数			
2	YES	NO	1			
3	YES	YES	1			

## ピボットテーブル(その2)

- 上部
  - 範囲を選択
- 下部
  - 出力先は必ず「新規ワーク シート」
  - 理由:失敗してもワーク
     シートごと削除できるから

	ピボットテーブルの作成	?	×
ſ	分析するデータを選択してください。		
	● テーブルまたは範囲を選択( <u>S</u> )		
l	テーブル/範囲( <u>T</u> ): <sup>'</sup> 練習2-1'!\$A\$1:\$C\$63		
	○ 外部データ ソースを使用(U)		
	接続の遅択(C)		
	○ このブックのデータ モデルを使用する(D)		
ſ	ピボットテーブル レポートを配置する場所を選択してください。		
	● 新規ワークシート( <u>N</u> )		
	○ 既存のワークシート(Е)		
	場所( <u>L</u> ):		
	複数のテーブルを分析するかどうかを選択		
	このデータをデータ モデルに追加する(M)		
	ОК	キャン	セル

#### ピボットテーブル(その3)



#### ピボットテーブル(その4)

#### ■ 単純集計

■ 数をかぞえる



「Aのタイトル」を,下の 「行」 ヘドラッ<u>ク&ドロップ</u>

#### ピボットテーブル(その4)

#### 「Bのタイトル」を「列」へ ドラック&ドロップ

- クロス集計
- 2つのデータ, それぞれに 答えた人の数
  - YES-YES
  - YES-NO
  - NO-YES
  - NO-NO

		牛乳は好き	きですか?	
		NO	YES	総計
牛肉は好きですか?	NO	3	10	13
	YES	13	36	49
	総計	16	46	62



#### データのコピー(操作のため)

- ピボットテーブルのままでは扱いにくい
- 新しいワークシートへ「値の貼り付け」



		牛乳は好き	きですか?		
		NO	YES	総計	
牛肉は好きですか?	NO	3	10	13	
	YES	13	36	49	
	総計	16	46	62	

#### グラフ化(積み上げ棒グラフ)

■ 「挿入」→「グラフ」→「積 み上げ棒グラフ」

 「行/列の切り替え」で 表のとおりのグラフ構成に できる



#### 相関係数を算出するために

YESを1, NOを0として、
 相関係数を計算

 ・置き換え(おきかえ)を
 ・利用して一気に置換
 ・

				፼ – ₽ ×
				サインイン 名共有
して セルル ミャ スタイル	・ 開 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一		∑ オート SU フィル ▼	JM * ATT 並べ替えと 検索と フィルター * 選択 *
/		セル		
				ab "ac 置換( <u>R</u> )…
J	К	L	Μ	置換 (Ctrl+H)           文字列を検索して、別の文字列に置き換えます。
				コメント( <u>M</u> ) 条件付き書式( <u>C</u> ) 定数( <u>N</u> ) データの入力規則(V)



- NO  $\rightarrow$  0
- YES  $\rightarrow$  1
  - それぞれ「すべて置換」をクリック

検索と置換			?	×
検索( <u>D</u> ) 置換( <u>P</u> )				
検索する文字列( <u>N</u> ):	NO			$\sim$
置換後の文字列( <u>E</u> ):	0			$\sim$
			オプション( <u>T</u>	)>>
すべて置換( <u>A</u> )	雪換( <u>R</u> ) すべて	検索( <u>I</u> ) 次を検索	≅( <u>F)</u> ₿	閉じる



- 相関係数を求める関数(どちらも同じ)
  - = CORREL(データ1, データ2)
  - = PEARSON(データ1, データ2)
- データが0と1の場合の相関係数は<u>ファイ係数</u>とも呼ぶ

E3	3 ▼ : × ✓ fx =CORREL(A2:A63,B2:B63)					
	А	В	С	D	E	F
1	牛肉は好きですか?	牛乳は好きですか?				
2	1	0				
3	1	1		相関係数	-0.03213	
4	0 1					
5	0 1					
6	1 1					

相関係数の 値	相関係数の強弱
0.7~1	強い正の相関あり
0.4~0.7	正の相関あり
0.2~0.4	弱い正の相関あり
-0.2~0.2	ほぼ関係ない
-0.4~-0.2	弱い負の相関あり
-0.7~-0.4	負の相関あり
-1~-0.7	強い負の相関あり

まとめ

#### ■得られたデータの特徴を表にする 1. クロス集計表 ■ピボットテーブル機能 2. 積み上げ棒グラフ ■ 「挿入 |→棒グラフ 3. 数値へ置き換え ■「ホーム |→置換 4. 相関係数 ■ CORREL 関数

■ 関係を数値で判断

#### 今後の学習について

- 統計の入門書は山のようにあります
  - 気に入ったものを手に取ってみてください

- Webでおすすめ
- アイスクリーム屋さんで学ぶ 楽しい統計学
  - <u>http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.h</u> <u>tml</u>